



学校便り

長崎市立日見中学校

第23号
令和6年2月20日
文責 校長 山本

【新入生保護者説明会】

学校では、学年末テストも終わり、いよいよ年度末を迎えます。2月15日（木）は、来年度入学予定の保護者の皆様にご参加いただき、新入生保護者説明会を実施しました。

校長からは、2か月後に始まる中学校生活についてお話しました。

環境が変わる

- 中学校の授業は50分授業。小学校と比べ、1日当たり30分増える。年間では、5000分増加。
 - 中学校は教科担任制。毎日、5、6人の教師が入れ替わる。教師もそれぞれに話し方、教え方などが異なり、各教科の先生に慣れるまで大変。
 - 部活動に入れば、放課後4時過ぎから6時過ぎまで練習。平日、休日それぞれ1日は休養日があるものの、ほぼ毎日のように放課後は部活動に参加し、土日は練習試合や大会が入ることもある。
- この環境にすぐに順応できる生徒もいれば、そうでない生徒もいる。しかし、そういう日々を送りながら、心も体もどんどんたくましくなっていく。

保護者としての役割

このような生活になるからこそ

- スマホやタブレット等を毎日2時間も3時間も扱っていると体調を崩すことにつながる。授業に集中できなくなる。使用について家庭でのルールづくりを。
- 教科の内容が難しくなってくる。家庭での学習時間の確保を。
- 毎日の生活リズムを整える。睡眠の確保。早寝早起きの習慣。

また、若者の自己肯定感や自己有用感が低いと言われ続けている。学校では、日直や係の仕事といった学級での役割を通して、また、体育的行事や文化的行事を通して、責任感や達成感、仲間を大切に仲間と協力する態度といったものを育てている。家庭でも、「頑張ってるね」とか、「手伝ってくれてありがとうね」といった声かけで、子どもはやる気や、自分は役に立っているんだという感情を高めていくことができる。思春期に入りなかなか親と話をしたがない子もいるが、めげずに、意識して取り組んでほしい。

家庭との連携

一方、環境が変わることで、その変化になかなか対応できない生徒もいる。それが大きくなると、学校に適應できず休みがちになったり、学校に行けなくなったりすることもある。これを中1ギャップという。中学校は、そんな子どもたちが、壁を乗り越えて生き生きと学校生活を送ることができるよう、一人一人に寄り添い、一人一人に応じた支援を行います。そのためにも、学校と家庭との連携がたいへん重要である。不安なこと、心配なことがあれば、いつでも学校にご相談いただき、一緒に取り組んでいきたい。

【3月学校行事】

- | | |
|--------|-------------------|
| 6日（水） | 公立後期選抜 |
| 7日（木） | 公立後期選抜・小6向け新入生説明会 |
| 11日（月） | 球技大会・送別行事 |
| 14日（木） | 卒業証書授与式 |
| 15日（金） | 公立合格発表 |
| 22日（金） | 修了式・離任式 |

